

岩国医療圏地域医療構想調整会議
（令和８年度第１回）議事概要

【日 時】 令和８年８月１８日（火） １９：００～２０：００

【開催方法】 山口県岩国総合庁舎１階 共用第８会議室

【出席者】 出席者名簿のとおり

【議事内容】

- 地域医療構想の進捗状況の検証を行い、医療機関対応方針の取組の実施状況等について確認した。
- 病床数適正化緊急支援事業について、岩国みなみ病院（※）、はるなウィメンズクリニック、マサキ外科肛門科の病床削減に係る説明を行った。
今後、病床を削減する※を付した医療機関について、新興感染症に係る協定による病床の確保等、地域の医療提供体制に問題がないことを確認した上、地域医療構想の達成に向けた対応方針の変更について合意した。
- 新たな地域医療構想策定ガイドラインの概要並びに令和８年度の優先的検討事項、３カ年度分の策定ロードマップ、検討体制及び構想区域・急性期拠点機能の決定手法について説明を行った。

- １ 令和８年度地域医療構想調整会議の進め方について
- ２ 令和７年度病床機能報告結果について
- ３ 地域医療構想の進捗状況の検証について

県医療政策課から、今年度の地域医療構想調整会議の予定、令和７年度病床機能報告結果について説明を行った上で、地域医療構想の進捗状況を検証するとともに、医療機関対応方針の取組の実施状況等について確認を行った。

（主な意見・質問等）

特に意見、質問等なし。

- ４ 病床数適正化緊急支援事業について

県医療政策課及び各医療機関等から、病床数適正化緊急支援事業に係る病床削減について説明を行った。

岩国みなみ病院については、これに加え、対応方針（2025プラン）の変更についても説明を行った。

（主な意見・質問等）

特に意見、質問等はなし。

5 令和7年度かかりつけ医機能報告について

県医療政策課から、令和7年度かかりつけ医機能報告の結果及び活用のあり方について説明を行った。

（主な意見・質問等）

特に意見、質問等はなし。

6 新たな地域医療構想の策定について

県医療政策課から、新たな地域医療構想策定ガイドラインの概要並びに令和8年度の優先的検討事項、3カ年度分の策定ロードマップ、検討体制及び構想区域・急性期拠点機能の決定手法について説明を行った。

（主な意見・質問等）

○ 構想区域について、人口20万から30万という数字が出てくるが、例えば、岩国、柳井などの山口県東部の医療圏を統合することとなるか。

⇒ 新たな構想区域の設定の考え方の一つとして、将来、2040年における区域内の人口が、30万や少なくとも20万という基準が示されている。

一方で、仮に構想区域を広域化し急性期拠点を一箇所に絞ると、住民が医療機関へのアクセスに難渋するとか、急性期の医療機関から退院して在宅医療や介護に移る際に、住民の住み慣れた地域できめ細やかなサービスを提供することが可能かという論点もある。

こうした、将来の推計人口に基づく医療需要と、住民の医療アクセスも含めた生活圏の状況など、色々な要因を考慮しながら、しっかり議論を重ねて参りたい。

○ ロードマップによると、令和9年度までには急性期拠点機能の決定ということなので、時間はかなりあるようでないような、かなりダイナミックに決めていかないといけない印象を持った。

⇒ 国も概ね令和9年度の上半期までに、構想区域や医療機関機能、特に急性期拠点を決定するという事は示しているところ。

圏域ごとの状況にあわせて、なるべく複数のパターンを示し、色々な意見を丁寧に拾いながら、スピード感を持って検討し、議論を活性化させて参りたい。

○ 岩国市は山口県の東端にあり、広島へのアクセス・便利がよいため、県内のみで医療圏をまとめようとする議論には、若干無理がある。

広島圏域の会議との状況のすり合わせや、問題を共有する場面があるのか。

⇒ 県境を挟んでいても、住民の医療アクセスがあることも考慮しながら、医療の完結の範囲を考える必要があると考えている。

広島県の構想区域とは別の区域となったとしても、連携や議論の状況についての情報収集をしながら進めて参りたい。

○ 高度医療まで意識すると、基幹病院のある広島市街までを含めて考えなければならないように思われる。

⇒ 岩国圏域における高度急性期患者は、本県の基幹病院に加え、広島市内の大学病院や県立病院への受入実態があることから、こうした状況を考慮した上で、将来の医療提供体制のあり方について議論したいと考える。

○ 医療機関機能というのは医療機関が自主的に報告するのではなく、県が主導したり国が決めるものなのか。

病床機能もそれに伴って県が決めてしまうのか、それとも計算式によって出るものなのか。

⇒ 医療機関機能については、現在担っている機能に近いものを、将来担う意思があるかという観点から、一旦は各医療機関の意向を吸い上げた上で、圏域の状況に鑑み、役割分担の議論を経て決定していくことを考えている。

そうした、各医療機関が将来担う機能の決定と並行し、各機能ごとに求められる必要病床数を計算式に基づき推計し、議論の上で決定して参りたい。